

史料目録No. 34

遺稿

非公表備忘、為ノ
特別意見書
昭和十八年以降

田中

73167

田中鉄三郎氏関係資料

旧番号
い24(60)

金融史資料	
分類記号	IAx
整理番号	22(60)
資料名	田中鉄三郎氏 所蔵資料
保管容器	口107
研30009	

通貨、金融史料	
分類	IBaヒソ
整理番号	い24/60
受入番号	い3243
名称	田中鉄三郎氏 所蔵史料
備考	

日附

項

目

本綴一各文

比白自己一備忘的ニ時々

認ソタレモノニシ

テ公表スル

元一ニアラス。

十六四二八

金融界の近状に就テ

十六八

財界新聞

~~...~~

本録一各文に比白自己一備忘的ニ時々

ヲ公表スル元一ニアラス。

十八、四、二八

金融界の近状に就て

十八、八

財界新聞

十八、八、二四

財政金融管見

十八、十、一九

臨時會々 金融通貨政策ト生巻

十八、一二、二八

半島地価管見

十九、二、一七

雜報新聞

十九、二、二八

刻下換討を要する事項

十九、五、一

現下換討を要する二二の風潮

十九、十、十一

管見

十九、七、二五

支那國の金融管見片々

十九、八、一

半島の金融に就て

No.

認ソタルモノニシ

~~...~~

新編一校次：新編一校次：新編一校次：新編一校次：新編一校次

No.

<p>一九、八</p>	<p>書面の問題</p>	
<p>一九、三、六</p>	<p>對中國經濟政策に就て</p>	
<p>二〇、四、一七</p>	<p>よて防止の強制的施策</p>	
<p>二〇、六、七</p>	<p>我が國時評の脆弱性</p>	
<p>二〇、六、二〇</p>	<p>通貨膨脹と日米の地方金融</p>	
<p>二〇、七、二</p>	<p>戰時停戦の検討點</p>	
<p>二〇、五、一八</p>	<p>大陸自治自衛統制の確立</p>	
<p>二〇、八、三</p>	<p>偶感稿録</p>	



一 最近金融市場の概況

二 戦時体制下の金融政策

三 金融界の近状に就て

四 預金集積の概況

五 銀行の合同

六 資金の融通

目次



(昭和十八年四月二十八日稿)

八

一

一五



目次

一、最近金融市場の傾向	一
二、戦時体制下の金融政策	三
三、金融の根本的病源の救治	五
四、預金集積の鈍化	八
五、銀行の合同	一
六、資金の尊重	一五

一、最近金融市場の傾向

預金の集積が充分でなく、自然金融市場は政府資金の收支如何に左右されると云ふ状態であるが最近の傾向として資金が大銀行に偏在する情勢が見られる、殊に政府資金の流入する關係の多い銀行に資金が集まる。コール市場の消長は専ら此の大銀行筋の資金放出如何による有様であつて、全体的に窮屈な状態の下に推移してゐる、それで短資市場が金融市場を圓滑に調整することに役に立つ作用は自然減少して來たのである。地方の銀行の如き貯蓄の実績を見ても其の目標額を遙かに下廻つて居つて、その金繰りは以前の様に潤澤ではない、以上の様な情勢であるから、公債の消化を圖る上にも自然

に於ける日銀の通貨の發行高を見ても、本年三月末に於て過去一年間の膨脹率は二八五%であつて、鮮銀の二三四%、臺銀の二三五%よりも更に一層の増大を示してゐる。此の通貨の膨脹を抑制するが爲に、昨年末來放出された日銀の貸出を收縮せしむる方針がとられ、それで曩に日銀から借入れて居つた銀行が、之を返金する爲に其の貸出を俄に回收するものも生じた次第であつて、現に三月末に於ける實情が之を示してゐる。元より生産力は増大してゐるが一面消費も亦軍需方面に於て増大して居るのであつて、一般物資の供給は少く物資と通貨との比率は急速に變化して行く。それであるから國內生産の増強に極力努力する一面海外よりする物資の補給にも一層の

なきを保し難いのである。例を擧げて見れば

(1) 公債消化の形を糊塗的に増大する爲に其の資金を日銀から貸出すとすれば、それが一時的な工作として豫定されて行はれたとしても、往々にはその貸出が返却されない前に次の公債消化を更に糊塗すること考へなければならぬ場合が生ずる。

(2) 貯蓄の計數を糊塗するために、當座預金を年度末に限つて通知預金に変更し、月を越せば又直ちに當座預金に変更すると云ふが如きは實質上金融國策上に役立つといふ譯ではなくして、貯蓄増強の氣勢を装ふ爲めのものであるから、段々こんなことが一般に知れ亘れば、斯くの如き工作の效用も忽ちなくなるのである。

(N) 金融界の進歩階級の二大である。其の資金を日増しに貸出せざるを得ない。附き果てた良状に

實体的觀測を誤らしめると云ふ弊害が伴ふのであつて、慎むべき事である。

要するに斯くの如き人爲的糊塗工作によつて、金融界にシコリを多くする事となつては累を後日に貽す所以であるから、出来る丈け之を避けて極力實質的な素直な増強法をやつて行かねばならぬと思はれる。

三、金融の根本的病源の救治

金融の圓滑なる運行を飽く迄保持する事が戦時下に最も肝要な事である事は申す迄もないが、之が爲にはその支障をなしてゐる所の原因を檢討して根本的に之を救治する事が必要である。

する重點主義の徹底を計らねばならぬ、而して其の供給された資金は之を有効、適切に運用して極力高能率的に活用するといふ事が根本的に肝要であるが、その果して斯くの如く運用されて居るか否うかといふ事を一層監視し留意する事が大切である。

(ii) 過去に於て生産力擴充を急速に推進する爲に資金の圓滑なる供給を圖ることが國策であつた事は申す迄もないが、戦時下物を要するの急なる餘り多少金融の行過ぎを見るのは恕すべしとするもの動もすれば、資金の不必要なる固定を生じて居る部分が少くない。設備の建設に資金の濫用が行はれ、又設備が未完成の状態にあり或は完成設備の遊休を見て居るものに就ては、それ丈資金が固定

過ぎたと云ふ批評もあることながら、何れにても斯くの如きものは速かに之が活用の方途を考究すべきは勿論である。行かねばならぬ間取引の排撃すべき事は申す迄もないが、之が爲には物價政策並に消費物資生産統制、配給の確保乃至消費統制の問題と關聯する所が多である。之の要する所は、

(一) 資金撒布の節約を要する、之が爲には事業の整備と共に一面に於て、之に要する資金の撒布を出来る丈節約すべきであつて、或は政府の徴用を要する場合に貸上金の制度を工夫するが如きはその一例である。

(二) 貯蓄性預金の吸収に力を注いで居る事は當然であるが、之が爲に

金、信用組合の増勢が普通銀行、信託會社等の預金に比し好調であることから判る次第であるが、尙此の大衆殊に労働階級に流入した資金は還元作用が不十分である一面、地方の地主、其他の資産家は、税金、寄附金、公債割當等の負擔が増大して、預金をする餘裕が少くなつて居る、全般的に云へば軍需工業關係の少い所には一層金融の窮屈を感じてゐる状態である。

統制政策の結果として現金が必然的に入用となつて信用取引は減退して居る、之は事情已むを得ざる傾向とも云へるが、日常生活用品のみならず企業運営に要する資材に迄闇取引が横行して現金の使用が増大して居ることは看過すべからざる所である。

入丁式資金が幾分許用が不十分である一面、此式の業主、其財の
あるところのやま映る次第であるが、尙其の大家格の後嗣割継の商
会、計用組合の散漫改普歴時、言指會指善の所金列其丁後開て
層其の傾向を強からしめる

5 事業の擴張策として會社を買収する爲に、時價の數倍の金を支拂
つて、他會社の株を買収し、合併等の手續をとることの煩を避けて
て事實上自己の配下に勝手に利用すると云ふことが行はれる。現
金所要高は自然に膨脹するのである。

6 廢業又は權利賣却に伴つて、此の方面に現金が撒布され、その現
金は、生産資金に向はずして浮遊し又は他の方面に向ふの傾向が
ある。

7 物價は騰貴し一面新情勢に適應すべき生活基準の低下が未だ徹底
して居ない爲に、生活に金を要する事が多く或は資産を擦り減ら

融合が仲々急激には出来ないのであつて、その機構の上からでも現
に人事部~~は~~或は業務部の主任者には各合同銀行の出身者を兩方から
選任して二人づゝ同地位に置^くと言ふ様な事も行はれて居る、斯くの
如き情勢であるから、業務の停頓を來す虞れがあり、然も合同後の
銀行は非常な^{大加減}な複雑した業態になるために、其の金繰りも簡
單に見通しがつきかねる。殊に合同の後、當分の間と言ふものは此
の困難が相當濃厚にあるやうである。沉んや合同しても店舗の整理
はこの際しないと云ふ事であつて見れば支店所在地の重複、支店網
の複雑等からも必ずしも合同の結果、銀行業務に利便を與へる事ば
かりでもない様である。恰も都會地の膨脹と言ふ事と同じ事であつ

數を以て誇りとする様な考へ方は検討を要するのではとからうかと思はれる。餘りに都會地が大きくなれば、行政上から言つても經濟運行の上から言つても行き届かない處が発生して諸般の政策は運営をうまく徹底する上に不便になる事がある。であるから程よいところの規模を有つた都市政策と言ふものが寧ろ得策であると思はれる。銀行でも同じ事で大きくなれば

(一) 總て運営が高能率的に行かなくなる傾向があり、

(二) 金融界の全般的見地から見れば資金を偏在的に獨占される様な事にもなる

(三) 中級以下の者の金融に對しては、其の考慮する處が輕くなると言

(四) 競争心が鈍くなる結果業務に勉勵する事が少くなつて専横に流れ易いと云ふ様な弊害もあるから、之等の諸點は大銀行の合同政策の上に餘程心さるべき所であると思はれる。

然し乍ら地方乃至^小銀行の合同に就ては、自ら其の意義を異にするものがある、今日の現状から見て、地方乃至小銀行の内容を強化すると言ふ事は大切な事であり又或程度に規模を大きくしなくては、其の營業も亦立ち行き兼ねると言ふ事情も存在する、新しく合同によつて其の業態を増強して同業者の間に小さな競争を避けると共に、其の信用を大にして其の立場に於ける金融の一層圓滑なる運行に貢獻すると言ふ使命が達成されるのである、尤も統制

財政の進行 企業に對する統一自治体の進行の條件として 金融の味
圓發中心の騰ぶる益果業意の設備せる事取也くさぐ了幕跡の漸止
是のよなき點を改善するもの、文書の指圖は、銀行の合同の並
中央集的傾向は今後も繼續するであらうから、自然地方銀行は、
主として資金吸收機關としての任務が多くなり、貯蓄銀行との關
係に於て其の任務が近似して行くと言ふ事は考へて置くべきであ
らう

六 資金の尊重

近來金を粗末にすると言ふ事が世間に言はれる様になつたが、之
は今更の事でもないのである。獨り資金の關係に於てのみならず、
生産増強を計る上に於て資材、勞力、動力、設備等の活用に就ても、
之を極力高能率的に考へて行かなければならない、物其の物が必要
であるからと言つて、無意義に之が生産手段を浪費してよろしいと

率の計出願して計は多かりけりといふ言は毒刺をさる事なり
計計の必要あり、主計の要なりといふ言は金の要なりといふ言
て、叙上の國家目的に對應せしめる事が、肝要である事は今更申す
迄もない事である。斯くの如き金を粗末にするなど言ふ言辭が數年
前に世間によく納得されて居たならば其の効果は更に一層大であつ
た、らうと思はれる。

昭和十八年六月二十八日

昭和十八年六月二十八日

一、内地經濟ハ、生産設備ノ擴充進捗、企業整備又推進サルルコトトテ今ヤ之ガ運営活用期ニアリ。考慮ノ重點ハ蓋シ燃料、動力、素材及食料ニ移行スベキカ。勞力ハ其ノ補給難キニアラズ要ハ能率向上ニアルベシ。

金融ノ問題ハ遊資ノ吸收ト資金循環性ノ鈍化是正ニアルコト依然タリ。資金需要倍々加ハレルガ、預金集積必ズシモ之ニ副ハズ。預金増加率が近時都會地大銀行ヨリモ地方銀行ニ於テ多シ、貸出増加率ハ前者ニ大ニシテ後者ニ小ナリ。以テ資金流動様相ノ變化ヲ知ルベク、對策又實勢ノ變轉ニ即應ヲ要ス。

以上其ノ結果ニモキマハ今茲益々蓄積ヲ見ユモハシテ預金ノ増大ニイテ
預金資金ノ増大ハ預金ノ増大ニ依リテ蓄積ニ至ルニシテ預金ノ増大ニイテ
農業ノ天候依存ハ水利政策ニヨリ向後ニ於テ緩和ノ餘地渺ラズ、但
シ六月半以來ノ降雨ハ本年植付ノ進捗ニ喜色著シ。

遊資吸收ノ延力良好、六月中實施中ノ割増金附定期預金ノ集積又頗
ル好成绩ナリ、蓋シ半島民衆ノ金融操作的訓練ニ資スル所モ亦大ナ
リト思ハル。各地域發券銀行ノ通貨增加率朝鮮ハ最モ低位トナル。

一、滿洲ニ於ケル産業企畫ノ整頓ト對日供出力ノ涵養進ム。北支食料難
ニ追ハレタル労働者ノ自然入國激増ハ一面滿洲ノ食糧政策ヲ壓迫ス
ル所ナルモ、此ノ際勞力ノ滿洲定着性ヲ增強シ置クノ意義又大ナル
モノアリ。

滿洲地場産業ト共ニ農産増大ノ要愈々加ハル。先月農業金庫設立ノ

發表アリ。四年前其ノ筋ニ提出シ置キタル農業銀行案ノ拙稿ヲ想起セシムルモノアリ。

一、支那ヲ通シテ食料ト物價トハ當面ノ重大案件ナリ。最近勞働者ノ足止上食料補給ノ爲メ各企業ノ消費經濟的資金需要頓ニ増加ス。物價暴騰ノ様相ニハ中支ト北支トノ間多少相違ノ事情アリ、對策ノ勘案ニ留意ヲ要ス。惟フニ支那ニ於ケル統制政策ハ先ヅ重點主義ニヨリ前進スベキカ。

從來ノ通貨制度ヲ管理通貨主義ニテ統一スル爲メニハ一步一步ト其ノ要素ノ具備ニ前進セシメ置クベキハ論ナシ。支那ノ對內的通貨政策ノ外對日通貨關係ノ實質的合理的建テ直シヲナス爲メニハ、二ツノ考慮スベキ機會アラン。一、南京政府ノ統治ガ自己ノ責任ト能力トヲ

以テ國內經濟政策ヲ操作シ、對日協力ノ實ヲ擧ゲ得トスル場合ニ
大東亞全体ノ綜合的考査ニ基キ大東亞全面的ニ通貨金融體制ノ整備
確立ヲナス場合。之ナリ

一、大東亞各域ニ亘ル生産ノ分布的經營、交通的聯繫ノ促進ハ戰時下急
ヲ要スル事情ニアリ、我が皇國ノ戰力ヨリシテ一面國內生産力ノ擴
充ト共ニ他面國外ヨリスル物資補給ノ增強ハ並行シテ常ニ施策ヲ要
スル所ナルハ長期戰体制トシテ勿論ノコトニシテ又現ニ實行セラレツ
ツアル所ナリト雖モ、世間ニハ動モスレバ後者ニ對スル視線ノ輕カ
ラントスルノ虞アラザルナキカ。

大東亞全權ノ聯合的等至ニ於テ大東亞全面前ニ嚴賞金總額ノ圓ノ整理
以テ國內面實業ヲ振興スル者ノ一因日露代ノ實業界ヲ振興スル者ニ

（昭和十八年八月）

物價騰貴ノ原因ヲナスモノノ一方計ノ事

相ツテ得シテ居ルモノノ買テハナイカラ、其ノ故ルモノハ

財ノ界、又聞ル（昭和十八年八月）

其人故事項ヲ提出スル

輸送力ノ増強

田中手記

我が國力ノ増強ニハ國內生産ニヨル物資供給ノ外、海外ヨリスル其ノ

補給力増大スベキコト言テ快クハ、其者ニツイテハ

イ、海外ヨリスル原料、燃料ノ補給

卷間種々ノ説ヲナスモノガアル。必ズシモ政府當局ノ方針ヤ事態ノ實相ヲ了得シテ居ルモノノ言デハナイカラ、其ノ或ルモノハ既ニ實行サレテ居ルモノモアロウシ、又或ルモノハ見當違ヒノ見解モアロウ。試ミニ其ノ數事項ヲ摘出スル。

一、輸送力ノ增強

我が戦力ノ增強ニハ國內生産ニヨル物資補給ノ外、海外ヨリスル其ノ補給ヲ極力増大スベキコト言ヲ俟タザル處、後者ニツイテハ

イ、海外ヨリスル素材、燃料ノ補給

ロ、海外ヨリスル生産加工品ノ補給ノ兩面ニ亘リ其ノ必要性ハ日ニ増大スル。共榮圈全体ヲ綜合シテノ産業ノ企畫的分布ノ整頓ガ必要ナル所以モコ、ニアル。斯クテ國內生産増強ト共ニ共榮圈内物資ノ交流モ行ハレテ交戦ト同時ニ共榮圈建設工作モ促進セラレル。

今日海陸輸送力ノ増強、殊ニ海上運送ニ非常ニ力ヲ傾注セラレテ居ルコト勿論デアルガ、更ニ之ガ強化策ヲトルノ餘地ハナイデアロウカ。即チイ、國內ノ重要加工産業ハ成ルベク現状ヲ活用シ、能率ノ増進、原料ノ配給等ニヨツテ生産ノ増加ヲ圖リ、設備ノ擴張

ハ此ノ際一時的ニ原則トシテ控へ目ニスルコトニヨリ、其ノ資

材ヲ造船材料ニ振り向クル。

口、現有船舶（木造船ヲ含ム）、貨物自動車等ノ十分ナル活用ノ爲

メニ必要ナ燃料補給ノ爲メ、油槽船建造ヘノ重點ヲ加ヘル。

ハ、燃料關係、資材關係、繫船等ノ現状ニ鑑ミ、沿岸乃至近海航路

用ノ木造船ノ建造計畫ニ過重スルコトナク、從來木造船建造ニ

振り當テタル資材、勞力等ヨリ一部ヲ長距離航行ノ鋼船舶ノ建

造ニ轉換増加スル。

等ノ諸點ニツキ再檢討ノ餘地ナキヤ。

尙陸上運送ニツキテハ

イ、客車ノ運轉ヲ更ニ一層制限スル。

ロ、小運送強化ノ爲メ貨物自動車等ニ對スル燃料ノ攷配給ヲ行フ。

等ニツキ更ニ工夫ハサレナイモノカ。

三、順送り式物資輸送ニヨル補給

物資ヲ原産地カラ需要地迄直接輸送スレバ長距離トナリ危険性ヲ伴フ

コトトモナルヲ以テ、順送り式ノ補給方法ヲトリ、例ヘバ内地デ必要ト

スルモノヲ滿洲カラ取り、滿洲ノ必要トスルモノヲ北支カラ取り、北支

ヘハ中南支ヨリ、中南支ヘハ南方地域ヨリト云フ具合ニ、各地ノ必要物

資ヲ計畫的ニ組ミ合セテ順送り式補給体制ヲ樹テ、所謂近距離輸送ノ連鎖方法ヲ考ヘ得ル餘地ハナイカ。

三支那人ノ輸送能力利用

共榮圈内ノ凡テノ物資交流ヲ我が國テ一手ニ擔當スルト云フコトハ事實不可能デアルシ、又各地域ニ相當ノ不滿モ生ズルコトニナル。依テ重要物資以外ニツイテハ自由交流ノ餘地ヲ存シテヨカロウ。

重要物資ノ一部（例ヘバ南方ノ食糧）ニツイテモ支那人ノ營利心ト「ジャンク」輸送力等ヲ活用シテ彼等ニ運送セシメル工夫ハナイカ。多少弊害モ生ズル場合ガアロウガ之ハ他ニ防止手段モ考ヘ得ルデアルマイカ。

四、生産ノ責任性ト煩瑣ナル手續ノ廢止

生産計畫カラシテ一元化ガ實現サレネバ國全体トシテノ生産增強能率ハ上ラナイ。各部ノ生産計畫ノ間ニ連繫、綜合、統一ガ行ハレナケレバナルマイ。而シテ一面法令及統制々度ノ複雑性ハ生産能率ヲ阻害シ又生産原價ヲ高メルノ原因トナル。

重要物資生産促進ノ爲メニハ

イ、一工場毎ニ責任生産量ヲ定メル。

ロ、社長徵用等ノ現状ニ鑑ミ管理會社等ニ對シテハ法令其ノ他ニヨル煩瑣ナ手續（諸報告等ヲ含ム）ヲヤメ、簡易ニ存分ニ生産増

強ニ働カシムル。

ハ、機構ノ新設改變等ヲ頻々行ハズ、成ル可ク現状ニ於テ最高度ノ能力ヲ發揮セシメル。

ニ、法令ハ出來ル丈ケ要點ヲ押ヘタ簡潔ノモノトシ、運用上ニ彈性ヲ存シテ置ク。

ホ、經濟各省ハ原材料、勞務者等ノ圓滑ナル供給ニ力ヲ注ギ、他ノ苟モ重要デナイコトニハ矢鱈ニ考案ヲナサザルコトトスル。

徒ラニ議論ノ末ニ走ラズ、苟モ確定セル大綱ニ沿フテ躊躇ナク實行ヲ進メテ行ク。他人ノ發意ナルガ故ニ殊更之ニ批判ヲ加ヘ、

他人ノ構想ナルガ故ニ故意ニケテヲツケルト云フコトノ許サル
ベキ時期デハナイ。

五日滿支ヲ一體トシ之ヲ中心トスル生産ノ増強

地理的關係、輸送關係、人的物的資源關係等ヨリシテ日滿支ヲ中核ト
スル戰力補強策ヲ強化スル必要ガアルガ、滿支ニ於テハ、資源開發ト素
材生産ヲ主トシ、地場産業ニヨリテ輕工業、雜品工業、食糧品工業等自
給ノ体制ヲ備ヘシメル（此ノ點南方地域モ亦同様）、内地デハ加工完成
生産業ニ主力ヲ注クベシト思ハルルガ、尙注意スベキコトハ

イ、綜合的企業配置企畫ニ基イテ、内地ノ遊休設備ニシテ滿支ヘ轉

用トキマツタモノハ出來ル丈ケ迅速ニ實行スル。

口、滿支間ノ物資ノ交流ニ就テ、對日供給ハ物動所定ノ數量ハアルデアロウガ、尙他ニ餘裕アル物資ニシテ、價格ト交易尻決濟ノ爲メ北支ニ餘計ニ流出スル傾向ハナイカ、是等ハ極力内地ニ向ケシムルノ工夫ガ必要デアル。

ハ、支那ニ於ケル銅器具、銅子兒等ノ回收ハ從來行ハレテハ居ルガ、尙中北支ヲ合シテ十萬噸内外ノ隱匿又ハ不使用在荷ガアルト云ハレテ居ル。回收上代償品ノ操作ニヨリ又ハ一地區ノ封鎖的手段ニタヨル供出促進ノ方法ハナイカ。

田イキアツミチノハ出糶ハ支マ漲盛ニ買替スル。

二、物資交易ノ不均衡、北中支ニ於ケルインフレ状況等ニ鑑ミ、内地ニ於テ現在不用ト見ラレル丈ケノ金銀ヲ利用シテ我が方ノ必要物資ヲ吸收スルコトヲ工夫スベキデアル。(金ニツイテハ上海デ綿糸布強制買上等ニ一部利用ハサレテ居ルガ)、支那民衆ハ銀モ傳統的ニ愛好スル。我が國ノ銀産額ハ昭和十六年四六五噸デアツタガ、其ノ六一乃至六二%ハ硬貨材料トシテ、殘餘ノ五一%ハ寫眞材料ニ、一九%ハ工業材料ニ使用サレタト云フ。今後硬貨及工業材料ノ分ハ節約ガ出來ル。現在銀買上値段ハ一噸四六圓八〇錢デ八月初メノ支那ノ銀相場ハ二七・三瓦當リ六

○元、之ヲ百元對十八圓デ換算スレバ一應當リ三九六圓ト云フ
高値ニ當ル。我ガ買上値段ハ八倍半デアアル。之ヲ支那デ物資吸
收ニ利用スレバ相當ナモノデアアル。

六地下資源ノ開發

地下資源殊ニ非鐵金屬ノ増産ハ緊急ヲ要スル。其ノ開發、採取、貧鑛
處理等ニ就テハ資金、資材、勞務等ニツキ助成工作モ更ニ考慮スベキデ
アル。

中小鑛山金融ニ就テ昭和十四年帝國鑛業開發株式會社ノ設立ヲ見タガ、
其ノ金融實績ニ就テハ兎角ノ評ガアリ、本來ノ機能發揮ニハ鞭撻ガ望マ

レル。

セ中繼港乃至物資貯藏地トシテノ香港

現在ノ輸送力ヨリ見テ、南方ノ重要物資（例ヘバ米、ゴム、砂糖、石油、錫等ノ如キ）ノ相當量ヲ香港迄運ビ之ヲ貯藏スルコトニスレバ、一ハ心理的ニ民心ニ安堵ヲ與ヘ、中南支ノ生産ノ促進乃至物價ノ調節等ニ役ニ立ツ許リデナク、香港カラ更ニ内地ニ（或ハ一部滿支ヘ）物資ヲ移動セシメル爲メノ中繼港タラシメテモヨイデハナカロウカ。

極秘

財
政
金
融
管
見

(昭和十八年八月二十四日)

田
中
手
記

一、經濟戰力ノ充實

二、財政政策ノ重點

三、金融運行ノ保全

四、戰時体制下ノ金融政策

五、金融上諸問題

(昭和十八年八月二十四日)

(一) 經濟戦力ノ充實

一、戦力ノ増強ニ向テ邁進セル經濟政策ノ目指ス所ハ經濟實力ノ充實ニアルコト勿論デアツテ、實際ノ力ガ必要デアル。外觀的ニ体裁ヲ糊塗シタリ内容ヲ欺瞞シタリシテ置イテハ勝戦ハ出來ナイ。戦力ノ涵養ハ正直ナ努力ニ依ルモノデアツテ、妄リニ小手先式ノ技巧ヲ容ルベキデナイト云フ基本的心構ヘヲ先ヅ前提トスル。

二、戦時下ノ經濟ハ常ニ其ノ實際情勢ノ推移ヲ把握シ常ニ其ノ變轉ニ即應シテ機宜ノ國策ヲ講ジテ行カネバナラヌ。而シテ此ノ實情即應ニ

二方面ガアル。其ノ一ハ過去政策ノ是正デアリ其ノ二ハ將來ニ對スル新政策ノ實行デアアル。前者ニハ過去ニ於テ行ツタ政策ガ、(イ)當初カラ適切妥當デナカッタコトヲ發見シテ是正スル場合ト、(ロ)當初ハ適當デアツタトシテモ其ノ後情勢ノ變化デ最早適正デナクナツタ爲メ是正スル場合トガアル。何レニシテモ執着ナク是正スベキデアアル。後者ハ日々複雑ヲ加フル新情勢ヲ勘考シテ積極的ニ機ヲ逸セズ適策ヲ以テ之ニ對處スベキデアリ、政策ハ強力ニ實行推進サルベキデアル。非常大戦下苟モ國策ノ向フベキ所ニ於テハ、已往ノ個人的因縁ニコダワツタリ又ハ良案モ他人ノ發意ニ成レルノ故ヲ以テ殊更之ヲ

ハ總策ノ要旨ヲ示ス。前卷ニハ過去ニ就テ行ハレタル總策ハ、(1)當國
ニ必要ナルモノガアル。其ノ一ハ過去總策ノ長所ヲ示シ其ノ二ハ將來ニ備ス
採用シナイト云フガ如キ、トシテモナキ狹量ナ遣リ方ハ許スベキデ
ナイ。戦争ハ總力ニ依ル、總力ハ總意ニ依ル、判リキツタ話ナガラ
附言ノ要果シテ無シトセンヤ。

三、戦力ノ増強ニ當ツテ心スベキコトハ諸般ノ聯繫工作デアアル。夫々經
濟政策ノ間ニハ相互關聯性ガアリ、各職場職場ノ間ニモ關聯性ガア
ル。更ニ地域的關聯性モアル、中央部ト地方、地方ト地方ノ間ニア
ル。斯クノ如キ關聯性ガ相互ニ留意サレテ協力的聯繫工作ガ圓滑ニ
行ハレナケレバナラヌ。舉國一致体制ハ此處ニモ徹底ヲ要スルコト
實ニ切ナルモノガアル。

セト。領海ハ聯成ニ對シ、聯成ハ懸念ニ對シ、時ニ至ルニ補テ以テ
四戰局ハ倍々苛烈ヲ加フルデアロウ、交戦ト共ニ大東亞ノ建設ヲ進メ
テ行ク。建設ト共ニ又戦力ノ增強ガ出來ル。歐洲ノ戦線ニ於テ米、
英敵勢ヲ牽制スル力ノ消長ニ多ク因ハレテハナラヌ。我國ハ交戦モ
外交モ一段ト視野ヲ大ニシ、段階ヲ高クシタル觀點ニ立ツテ大局ニ
對處スベキモノデアルト考ヘル。

四 彈藥ハ枯ル者際ニ成テハヤクハヤクニ充テ共ニ大軍用ノ要ヲ成スルニ至ル
ヲ行ハ。 獲獲ト共ニ又彈式ノ試做ヲ出來ル。 烟筒ノ彈藥ニ就テ米、
(一) 財政政策ノ重點

一、戰時財政政策ニ於テ國家ノ歲計ハ事ノ輕重ニ比例シテ均勢ノトレタ
戰力發揮ガ出來ル様ニ仕組マレネバナラナイガ、更ニ之ガ財源ガ戰
時經濟ニ適應シテ確保サレネバナラヌト云フ點ニ重要味ガ加ハル。
即チ増大シテ行ク所ノ戰費ノ調達ト共ニ生産ノ擴充、國民能力ノ増
進ニ即應スベキ金融ノ運行乃至通貨政策ヲ講ジテ行ク所ニ財政政策
ノ重點ガ加ハツテ行クノデアアル。然モ其ノ施策ニハ内外地ノ外、大
東亞ノ建設ヲ控エテノ廣汎ナ構想ガ加ヘラレネバナラナイ。現下財
政ノ運行ニ當ツテハ廣義ニ於ケル金融政策ニ付テ達識者タルコトヲ

要スル所以ガ茲ニ存スル。

ニ戰時財政ノ膨脹ニ伴ヒ公債ノ發行ニ依存スルコト益々増大スベキモ同時ニ租稅財源ヲ戰時下擔稅力ノ増加セル部面ニ適應確保スルコトモ亦考慮セラレツツアル所デアロウ。殊ニ撒布サレタ巨額ノ政府資金ニシテ其ノ金融機關其他ヘノ還元作用ガ充分デナイ場合ニハ、是等資金ノ還流ガ停頓セル方面ヲ目指シテノ課稅ニヨル資金吸收モ亦有意義デアリ、效果的デアル。之ハ財源トシテノ見地カラ許リデナク、資金ヲ淀ミニ放置セズニ之ヲ有效ニ流動セシムルト云フ金融政策上カラモ有意義デアル。

二、課税制度、租税ニ對シテ公平ニ且徹底セシムルコトガ肝要デアリ、

三、唯税制ハ擔税力ニ即應シテ公平ニ且徹底セシムルコトガ肝要デアリ、
課税ハ粗雑デアツテハナラヌ。戦時下諸般ノ經濟事情ハ複雑多岐ヲ
加フルガ、サリトテ税制モ亦複雑多岐ニ亘ラシムルコトガ必シモ效
果的デハナイ。例ヘバ貯蓄性預金ヲ奨勵スルノ趣旨カラ、定期預金
利子ニ對スル税率ヲ年數ノ長キニ從テ低減スルト云フ複雑ナ課税率
ヲ定メタガ、實際大シタ效目ハナイ。整頓セル租税体系ノ公正ナル
徹底ヲ得策トスル。徵税ハ金融政策ノ外、生産其他ノ國策トモ調和
スルコトガ必要デアル。徵税當局者ハ唯其ノ徵税成績ヲ擧クルニ熱
心ナル餘リ、他部門ノ政策トノ間ニ矛盾スルガ如キ現象ヲ生ズルコ

トモアリ得ル。例へば目下推進中ノ國策的企業整備ノ一方法トシテ各企業相互間ニ買収ガ認メラレテ居ルガ、合併ノ爲メニ株式ヲ賣買スルモノニハ高率課税スト云フ稅當局カラノ通牒デ當業者ハ怯エテ居ルト云フコトモ聞ク。世間ニ財政官廳ノ中デ最モ低能率デ粗雜デ亂暴デアルノハ稅務關係デアルト云ハレテ居ルノハ果シテ如何ナル事情ニ基因スルカ。

四政府資金撒布ノ消長如何ガ金融ノ繁閑ヲ左右スルカハ近時絶對的トナツテ來タ。殊ニ軍部關係ノ支拂ハ重點軍需産業ノ關係上大口ニ集中サレ然モ少數ノ金融機關ニ偏在シテ支拂ハルルノミナラズ、支拂

各企業間ニ買取或賣取スルモノヲ指シ、合資ノ業ニ特ニ賣買
期モ亦一時ニ集中スルコトガアルノデ金融市場ニ波瀾が多クナル傾
向ガアル。依テ政府資金ノ撒布ニハ努メテ市場需給ノ繁閑ヲ考慮シ
又期節的調節ヲ加味シテ支拂ノ平準化ヲ圖リ、一面租税ノ徴收、國
債ノ消化ノ平準化ト睨ミ合セテ、出來ルコトナラ市場調整ヲモ考究
スベキデアル。現行前金拂、概算拂制度ノ如キモ之ヲ再検討シテ、
過剩資金ノ滞留ヲ來サス、弾力性アル有效ナル支拂方法トシテ適切
ニ善用スルコトヲ考フベキデアル。又撒布サレタ政府資金ノ數量ガ
段々多額ニナルニ連レ之ガ吸收如何ハ金融政策上益々重要ナ課題ト
ナル。殊ニ巨額ノ軍關係ノ支拂ガ第一次的ニハ軍需會社ニ對シテナ

向てハ。前々通銀資金ノ蓄積ニハ接々マ市世蓄積ノ蓄積ヲ等意ニ
サレルガ、此ノ資金ヲ出來ル丈ケ金融機關ニ引キツケ又ハ保留スベ
キ特別ノ工夫ガ必要デアル。第二次的ニ一般會社又ハ個人間ニ滲透
シタ後ニハ一般資金吸收ト同様ニ吸收ヲ圖ラネバナラヌ。

(三) 金融運行ノ保全

一、金融市場ノ近情ハ資金需要ノ依然急増セル一方、資金集積ノ鈍化ニ
ヨリ金繰リ窮屈ニシテ、金融ノ消長ハ政府資金ノ收支如何ニヨリ左
右サレルト云フ情態デアルガ、然モ此ノ政府資金ノ流入モ軍需工業

ニ關係深キ小數金融機關ニ集中スルノデ資金偏在ノ現象ガ發生シテ居ル。コール市場ハ狹小トナリコール市場ガ全体ノ金融ヲ圓滑ニ調整スルト云フ作用ハ漸次微弱ニナツテ來タ。然モ政府資金ノ撒布高ト云ツテモ必ズシモ歲計ノ増大セル割ニハ増加シテ居ラズ、今年ノ七月迄ノ実績ニ徵スルモ、公債ノ發行高ハ前年同期ニ比シ二十四億圓ヲ増加シテ居ルノニ、政府資金支拂超過高ハ前年同期ニ比シ三億圓餘ノ増加ニ過ギナイ。之ハ生産事情トノ關係モアルコトデアルガ、兎ニ角兩者ノ釣り合ハトレテ居ナイ。

ニ全國銀行ニ付テ諸勘定ノ増加狀態ヲ見ルト今年ノ上半期ト前年同期

トヲ比較スレバ、(イ)預金ノ増加額ニ於テハ本年上半期ハ昨年上半期ニ比シ七億六千萬圓ヲ増加シテ居ルニ對シ、(ロ)貸付ノ増加額ニ於テハ十一億七千萬圓、(ハ)有價證券所有ノ増加額ニアリテハ三億八千萬圓ヲ夫々増加シ、結局(ロ)ト(ハ)ニヨル資金需要ノ増加ニ對シ(イ)ノ資金供給増加ガ甚シク不均衡ヲ示シテ居ル。

三、尙同ジク銀行間デモ最近ノ傾向トシテ注目サルルコトハ都會地大銀行ヲ主トスル所謂普通銀行ハ、近來二三期ヲ通シテ預金ノ伸ビ力ハ左シテ違ハナイノニ、貸出ノ増加率ハ著増スル爲メ有價證券ノ所有高ノ増加率（公債所有高モ同様）ハ著シク減退シテ居ル。之ニ反シ

地方銀行ノ方ハ預金ノ増加率が多ク、貸出ノ増加率ハ大シタ變化ハ
ナイノデ有價證券所有高ノ増加率（公債所有高モ同様）ハ著シク伸
ビテ居ルト云フ現象が見ラレル。之ハ資金流動ノ經路ノ變化ヲ示ス
モノデアツテ、金融政策上看過シ難キ時相デアル。

四今後ニ於ケル資金ノ動キヲ豫想スルニ、今後尙生産擴充資金ノ需要
ハ多額ニ達スベク、既ニ資金調整法上認可サレテ居テ未ダ實行サレ
テ居ナイ額モ相當ノ高ニ上ル。尙企業整備ノ進捗ニ關聯スル資金、
公債消化ニ振り向クベキ資金等ニ對處スルコトヲ要スル。金融機關
ハ金繰り窮屈ナガラ因縁モアリ、体面モアルノデ何トカ貸出ノ算段

セト、予言留銀率預言高入世賦率（公債預言高子回銀）ハ著々ハ
ヲツケテ居ルガ、大体企業界ノ資金調達ノ方法トシテハ株式拂込ノ
方ガ有力ニナリ、社債ナドハ頗ル不人氣ノ實情ニアル。

五、結局資金循環性ノ鈍化ガ崇リヲナスノデアツテ、之ヲ放置スレバ資
金ハ通貨發行ニ依存スルコトガ急増シ、滔々トシテ通貨ノ奔流ハ物
資ノ數量ヲ翻弄スルコトニナルノデアアル。開戦以來生産力擴充ノ國
策線ニ沿フテ資金ノ供給ハ圓滿ニ行ハレテ來タガ、事態ノ急ナルニ
即應シテハ多少金融ノ行過ギヲ見ルコトモアルノデアアルガ、事情ハ
恕スベシトスルモ、サリトテ金融ノ「シコリ」ヲイクラモ作ツテヨ
イトハ云ハレナイ。資金ノ不必要ナル固定ハ出來ル丈ケ解消セシメ

式教育に於ては、極端な不人算、實情にては。……
ネバナラヌ。生産設備ノ急設ニ資金ノ濫用ガ起リ、設備ガ未完成ノ
儘ニ停頓シ、完成シタ設備ガ遊休状態ニアレバ、ソレ丈ケ資金ハ固
定シテ他ヘノ活用ヲ妨クルノデアル。故ニ既存「シコリ」ノ解消ニ
努ムルト共ニ資金ノ新規活用ニハ重點的の使途ニヨツテ極力高能率化
スルコトガ根本ノ要諦デアル。簡單ニ資金ハ唯生産ニ追隨シテ來レ
バソレデヨイト俗受ケスル様ナ非國策的の言辭ヲ産業界長老ノ間ニ聞
クト云フ。マサカト思ハレル。聞取引ノ排撃スベキハ勿論ナルガ、
之ニハ物價、消費、配給等ノ諸政策ニ關聯ガアル。日常生活品ノミ
ナラズ、企業經營ニ要スル資材ニモ聞ガ行ハレ現金ノ使用ガ増大ス

ル。尙統制政策ノ結果必然的ニ信用取引ニ代ツテ現金取引ガ増加スル事情モアル。事業擴張ノ爲メニ他企業ヲ買收シタリ又ハ廢業、轉業者ノ權利ヲ買收スルノニ現金ガ使ハレル。一般物價騰貴ノ爲メニ現金需要量ガ増加スル等々、現金ノ使用ハ嵩ムノデアアルカラ、資金撤布ノ節約ト共ニ撤布資金ノ吸收ト云フ兩面ノ工作ハ益々努力ヲ要スル。

六、資金循環性ノ向上ノ爲メニハ、資金ノ國策的分布ヲ圖リ、之ガ高能率的活用ヲ監視スル必要ガアルガ、之ヲ企業面カラ云ヘバ、生産設備ノ增強ハ高能率工場中心主義ニ集中シ、操業上必要ナル資材ニツ

キテモ圓滑迅速ナル配給機構ヲ運営シテ、資金ノ固定ヲ阻止シ資金
面ニ於テハ資金運用ニツキ各金融機關ノ緊密ナル聯絡ヲ保チ、綜合
的産業資金計畫ノ樹立ニヨツテ、資材、勞力等ノ配分ニ照應セル資
金ノ分布ヲ圖ルベキ次第デアル。必要ニヨリ資金的監察機能ヲ強化
セネバナラヌガ、企業ノ經理分析、原價計算等ニツキテ金融機關ノ
協力モ亦考へ得ラレル。

七、撒布資金ノ還元ニツキテハ其ノ集積鈍化ノ原因ヲ檢討シ對策ヲ講ズ
ベキハ勿論デアルガ、預金ノ形ニ於ケル資金吸收ト預金以外ノ形ニ
於ケル資金吸收ト兩々相俟ツテ資金ノ循環性が助長サレル。之ニハ

圖ニ就マヘ資金運用ニモ資金融通關入要素モハ關係ヲ與セ、結合
具体的ノ場合ニ應ジテ種々考案モアルガ、要スルニ時局ノ推移ト共
ニ資金流動ノ経路ニ變化ヲ來スコトハ自然ノ趨勢デアツテ、コノ變
化シ行ケル實際ノ新経路ヲ把握シ資金ガ何處ニ多ク停頓セルカヲ見
テ適策ヲ講ズルノ心構ガ必要デアル。換言スレバ既往ニ於テ慣行セ
ラレタ所必ズシモ何時迄モ實情ニ適應スルトハ云ハレナイノデアル。
例ヘバ從來銀行ヲ經由シテ地方ニ流出シタ資金ハ再ビ必ズシモ銀行
ヲ經由シテ還元セラレテ居ラナイノガ近狀デアル。即チ郵貯又ハ産
組ノ預金ニ轉換セラルルノ傾向ガ顯著トナツテ來タガ、其ノ外ニ尙
大衆ノ間ニ浮遊停頓スル金モ亦少クナイ。還元サレテ來ナイ資金ガ

逐次累増スルト勢戰^時經濟ノ活動ヲ通貨ノ新規發行ニ求メザルヲ得ザル部分ガ増大スル。鬱血スレバ身体ノ動キハ鈍クナル。

八、勿論資金ノ吸收ニハ現ニ當局ノ努力セラレテ居ル所デアルガ、預金制度ガ餘リニ複雑多岐ニナリ過ギテハ居ナイカ、寧ろ現行各種ノ國民貯蓄組合制度ヲ整理シ、職場天引貯金及隣組貯金等ヲ中心トスル貯蓄組合制度ニ統一強化シ全面的普及ヲ圖ル方ガ有效デハナイカトモ云ハレテ居ル。場合ニ依ツテハ有獎貯蓄預金トカ、高利廻リノ個人長期貯蓄預金トカヲ工夫スベシトスル議論モアル。尙又貯蓄預金ニ關スル課稅措置ニツキテハ繁雜ナル課稅關係ヲ整理シ、基本稅率

一本ノ簡單ナ課稅體系ニ統一スルノガ得策デアルト云フ主張モアル。預金以外ノ資金吸收ニ於テハ郵便貯金、信用組合貯金ハ都市及農村ノ大衆貯蓄機關トシテ著シク増勢ヲ示シテ居リ、何レモ銀行預金ニ準ジテ考ヘラレ得ルガ、金錢信託、保險會社資金ハ大衆資金ヲ吸收ノ相手トシテ居ル譯デハナイノデ其ノ増勢ハ鈍化シテ居ル。今後ニ於ケル國民^{貯蓄}集積ノ根幹ハ銀行、郵便局、信用組合ニヨル預貯金ガ益々中心のニ取扱ハルベキデアロウ。尙株式、國債、小額債券類ニ對スル個人ノ投資ニヨル資金吸收部面ガアル。株式ニ付テハ投機ニ陥ラザル範圍ニ於テ投資分野ガ存スルガ、小額債券ハ特殊ノ場合資金

資金以外ノ資金廻轉ニ就テハ、金融機関、銀行、信託、証券、金、銀、市、外、為、替、金、等、ノ、資、金、吸、收、方、策、ト、シ、テ、ノ、預、貯、金、増、強、ノ、意、義、ハ、愈、々、大、デ、ア、ル、。

吸收效果ハアルガ、之ニ對シ多大ニ期待スル譯ニハ行カナイ。個人ノ國債投資モ亦懲滯ハセネバナラナイガ、消化數量ノ上ニ於テ到底金融機關ヲ通シテノ預貯金ニヨル投資ニ比較スベクモナイ。時局下

四 戰時体制下ノ金融政策

戰時經濟体制ノ強力ナル維持増強ノ爲メニ金融政策モ亦即應セネバナラヌ。金融政策ノ影響スル所ハ微妙デアリ措置ノ慎重ヲ期セネバナラ

ナイガ、要ハ戦力ノ充實伸展ヲ目途トスル。實際實力ノ強化ニアルノ
デアル。隨テ金融政策ノ上ニ糊塗的手段ヲ反覆スルコトニナラザル様
警戒ヲ要スル。或ル場合ニ於テ一時政策上ノ必要カラ技巧的人爲工作
ヲ施スコトガアツタトシテモ、動モスレバーツノ糊塗的措置ノ跡ガ未
ダ解消セザルニ先立ツテ、又他ノ糊塗手段ヲ用ヒテ胡魔化サネバナラ
ヌ様ナコトニナルカラ、コンナ事ガ重ナツテハ實質的ニ戦力ヲ增強ス
ル上ニ支障ヲ生ズルコトニモナル。例ヘバ

イ、公債消化ノ成績ニ付テ其ノ形ヲ糊塗的ニ大キク見セル爲メニ、銀
行ニ對シ資金ヲ日銀カラ貸出シテ、之デ公債ヲ遮ニ無ニ買ハセ

タトシテモ、銀行ガ其ノ借入金ヲ日銀ヘ未ダ返却シテシマワ又間
ニ又次ノ公債消化ヲ借金デ糊塗シナケレバナラヌ様ナ時期ガ來ル。
胡魔化シ勘定ガ容易ニ消エナイコトニナル。本年初カラ二、三月
ニカケテ銀行ガ前年末其ノ筋ノ指圖ニ依テ急ニ多額ノ公債ヲ買入
レル爲メニ行ツタ此ノ種ノ借金ヲ返済スル爲メニ、然モ預金ノ集
績ハ思ワシクナカツタノデ、金繰ガ窮屈トナリ、中ニハ無理シテ
モ貸出ノ回收ヲ計ツタモノガアツタコトハ周知ノ事實デアル。前
途ノ豫定セル金繰上ノ餘裕ヲ見テ一時借金シテ公債ヲ買フノトハ
性質ガ違フ。

口、貯蓄ノ成績ヲ人爲的ニ多ク見セカケル爲メニ、年度末ニ當ツテ一時當座預金ヲ通知預金ニ變名シ置キ、月ヲ越セバ再ビ當座預金勘定ニ戻スト云フ様ナ糊塗手段ハ、勿論實質的ニハ何等金融實力ノ強化デナク、唯貯蓄增強ノ氣勢ヲ裝フ爲メノ政略デアルカラ、世間ガコノカラクリヲ知ツテシマヘバ效目ハ無クナツテシマウノデアル。事實最早之モ知レ渡ツテ居ル。

預金ト貸出トノ兩建ニヨツテ預金ノ數量ヲ膨ラスト云フ様ナ外裝的工作モ金融ノ實質的觀測ヲ誤ラシメル基トナルカラ慎マネバナラヌ。

ハ、年末、期末ニ於ケル市中銀行ノ日銀カラノ借入金ノ増嵩ヲ匿ス爲
メニ、之ヲ日銀ノ貸出勘定科目カラ他へ轉記シタコトモ、其ノ道
ノ人ハ知ラヌモノハアルマイ。

要スルニ以上ノ様ナ人爲的糊塗工作ヲ反覆スル様ナコトニナツテハ金
融政策上ノ累ヲ後日ニ貽ス所以デアリ、又世上周知トナツテハ當局ノ
發表スル計數ニ對シ一般ノ信用ヲ薄カラシムルコトトモナルカラ、努
メテ技巧ヲ避ケテ實質的ナ素直ナ措置デ推シ通シテ行クノガ戰時的態
度デハナカロウカ。

金融政策ニハ獨リ國內的考察ニ限ラナイ、今日カラ大東亞全域ニ亘ル

総合的構想ヲ目標トシテ着々其ノ歩武ヲ進メテ置カネバナラヌ。其ノ要素ノ具備、下地ノ構成ニ手ヲ打ツテ行カネバナルマイ。當局ニ如何ナル構想アリヤ如何ナル前進工作アリヤハ知ラナイガ、世間ニハ「手ヲ觸ル可ラズ」ガ目下ノ方針デアルカノ如ク傳ヘラレテ居ル。國策上果シテ手ヲ觸ル可ラザルヤ。殊ニ支那ノ通貨對策ノ如キ複雑セル當面ノ問題モアル。嘗ニ支那ノ對內的通貨對策バカリデナク、更ニ對日通貨關係ノ實質的合理的建テ直シヲナスノ必要ガ迫リ來ツタラドウスルカ。此ノ問題ヲ解決スベキ機會ハ將來二ツノ場合、即チ支那ノミニ局限シテノ場合ト大東亞全体ヲ綜合シテノ体制ヲ整備確立スル場合トア

要素入具謝、不厭入懲罰ニ手ヲ付セテ管收ホクセムヲ卜。當國ニ賦税
ルト思ハルルガ、何レニシテモ左顧右眄ハ禁物デアリ、斷乎所信ヲ堅
メテ力強キ施策ニ官民ノ協同前進ヲ要スルノデハナカロウカ。

再金融上諸問題

經濟實力ノ增強ニハ既存ノ弱點ハ速カニ之ヲ補強シ、將來ノ新情勢ニ
即應シテ是正モシテ行カネバナラヌガ、前述シタ種々ノ問題ノ外ニ、
昨今金融界ノ話題ニ上ル數個ノ事項ヲ擧ゲテ見レバ左ノ如キモノガア
ル。

又モ代銀キ部策ニ官具ハ謝同前級モ要スルハテハモロヤ代。

イ、時局以來東京市場ノ金融中樞的地位益々加ハリ、大阪市場ハ漸次狹小トナリ東京市場ヘノ依存程度ガ急増シタ。

銀行合同殊ニ大銀行ノ合同ハ金繰リ本店集中制度ヲ採ル結果、資金ノ地方流出ハ月末ニノミ限定セラレズ。最近八月央ニテモ地方流出絶エズ、自然市場ハ安定性ニ乏シクナツタ。

ロ、金庫並ニ營團關係ノ資金ノ移動ハ急激ニ行ハレ市場ヘノ壓迫感ヲ重クシテオル。

主トシテ興銀中心ニ移動スル社債券拂込並ニ前貸金ノ實行ハ市場ノ繁閑ヲ必ズシモ顧慮サレテ居ナイ。

銀行合同ニ大膽行ハ合同ハ金融ニ本國中
小イセシ東京市謀ヘハ對容感實セ急務ニ
ニ

ハ、金融機關ノ公債消化ニ對スル指導ハ兎角期末、歳末等ニ於テ一舉
ニ行ハルル結果、金繰り上ノ波瀾ハ大デアル。

尙金融機關ノミナラズ事業會社モ大部分決算期ヲ政府年度ニ合致
セシメ三月、九月トスルコトハ、金繰り上ノ繁忙期ヲ更ニ増加ス
ルコトトナル。

ニ、資金ノ放出ヲ共同融資ノ形ニ於テハ銀行業者間ニ至極簡單ニ取扱
フ癖ガアルガ、尙此ノ共同融資ハ資金上ノ餘裕ガアルト否トニ拘
ラズ、特殊筋又ハ一流筋ノ銀行ニ限定シテ居ル所ニ金繰りノ窮屈
味ガ存スル。

ホ、市中金融機關ハ時々ノ金繰上、日銀カラノ貸出ニ依存スルコトヲ
尙逡巡スルト云フ舊思想ヲ脱却スルニ至ツテ居ラヌ様デアルガ、
日銀トシテモ其ノ貸出ヲ商業手形ノ割引及國債擔保付ニ限定シツ
ツアルコト舊ノ如シデアル。戰時下特殊ノ形ニ於ケル信用供與即
チ共同融資、命令融資、其他ノ手形ニ對スル融通方法ハ如何ニ考
フルヤ。

ヘ、金融統制會ノ運営及其ノ編成ニツキテハ再検討スベシトノ聲モア
ルガ、何レニシテモ日銀トノ緊密有效ナル聯繫ト共ニ、日銀ノ市
場操作能力ノ適正ナル發揮ニハ一工夫ヲ要望セララルル所デアル。

ト、在來ノ金融機關ニ加フルニ戰時下新規ノ金融機關トシテ諸金庫、
營團等ノ設立ヲ見、其ノ業務ノ分野ハ一應制度上判別セラレテ居
ルノデハアルガ、實際ノ運営上ニ於テハ必ズシモ明確デハナイ。
世上ニ同ジ様ナ融資デアツテモ陸軍ノ關係ハ興銀ヘノ命令融資ニ
ナリ、海軍ノ關係ノモノハ戰時金庫ニ行クト云フ様ナ話ガ傳ハツ
テ居ルガ、金融機關ノ間ニ出來ル丈ケ融資上ノ摩擦ハ避ケ度イモノ
デアアル。

尙又特殊金融機關ノ合同整理ト云フ時局下全体的機構上ノコトモ
問題タルヲ失ハナイノデアアル。

子、諸金融機關ノ實勢ハ時局下ニ於ケル經濟情勢ノ變化ト當該業務ノ重要性ノ變化トニ伴ヒ、著シキ消長ノ跡ヲ認メシメテ居ル。例ヘバ郵便局、信用組合等ノ伸張力ハ新ナルモノガアル。從テ是等實勢ノ變化シタ各種ノ機關ヲ操縱シテ夫々適當ナル機能ヲ發揮セシムルニハ、自然其ノ主務監督廳ノ關係ヲ如何ニスルヤニツキテノ考慮ヲ要スルコトモ亦益々加ハツテ行クノデアアル。

リ、銀行ノ合同ガ著シク促進サレタガ、都會地大銀行ノ合同ニ就テハ其ノ後ノ推移カラシテ兎角ノ噂ヲ生ンデ居ル。人的ニモ業務的ニモ進歩セズシテ却テ澁滯シテ居ルト云フノデアアル。蓋シ餘リ規模

ガ大キクナレバ、(1)總テ運営ガ高能率的ニ行カナクナル傾向ガアリ。 (2)金融界ノ全般の見地カラ見レバ資金ヲ偏在的ニ獨占サレル様ナコトニモナル。 (3)中級以下ノモノニ對スル金融ニツキテハ其ノ考慮スル程度ガ輕クナリ大口金融ニ囚ハレル。 (4)競争心ガ鈍クナル結果業務ニ勉勵スルコトガ少クナツテ專横ニ流レ易イト云フ様ナ非難ガ行ハレテ居ル。

然シナガラ地方銀行乃至小銀行ノ合同ハ自ラ其ノ趣ヲ異ニシ、其ノ内容ノ強化、業礎ノ確立ト共ニ同業者間ノ無益ノ競争ヲ避ケ、時局ニ於ケル金融職域ノ奉公ニ極メテ意義アル所ト云ハレル。

金融業者ノ職域ハ重大ナルモノガアル。統制政策下資金運用上ノ様相ノ變化ニ見テ、金融機關ハ今ヤ資金吸收機關デアリ郵便局ト異ナラナイ等ノ言辭ヲ銀行業者ノ間ニ聞クト云フガ、之ハ何タル退嬰カ。資金ノ集積ト共ニ産業其ノ他方面トノ綜合聯繫的企劃ノ實現ニ協同邁進スベキデアル。

内外ニ亘リ戦時下經濟ノ運営ヲ圓滑且強化スベキ重大ナル責務ガ金融機關ノ双肩ニ懸ツテ居ルト云フコトノ自覺ハ素ヨリ當業者ノ間ニ充分デアルコトト信ズルモノデアル。

要スルニ非常戦時下ノ經濟政策ハ率直ニ實力ヲ充實スルニアルカラ、

懸掛ノ變計ニ見テ、金堀鐵關ハ今チ資金廻効鐵關マテリ、津身目イ

唯裝ヒヲ凝ラスト云フ様ナ舊体制思想ニ囚ハレルコトナク、仰山ナ機
構バカリデ、運営上ノ實果ノ伴ハナイ、所謂花火ヲ揚ゲル式ノコトハ
斷ジテ慎マネバナラナイノデアル。

酒造マシナリノ...

酒造マシナリノ...

六

昭和十八年十一月十九日



(時事管見)

金融、通貨政策ト生産

(田中私記)

昭和十八年十一月十九日

目次

- 戦力増強ト資金對策
- 資金循環性ノ保持
- 通貨膨脹趨勢ノ檢討ト其ノ措置
- 資金ノ滯溜ト大衆層
- 金融機關ノ重大ナル機能運用上ノ是正
- 産業界ニ於ケル二、三ノ話題

○販賣進出懸差ハ、餘積イ其ハ、計置

○資金耐震對ハ、呆持

○彈込耐震イ資金機策

○戦力増強ト資金對策

戦力増強ノ上ニ物資ヲ要スルコト愈々急且大デアリ之ガ生産ニ要スル資材ハ愈々貴重トナツタ、之ガ使用ニハ緩急ニ應ジ最モ有效適切ニ高能率が發揮サレネバナラヌ。

資金モ亦同様ニ戦時生産ノ要請ニ應ヘテ機ヲ逸セズ圓滑ニ供給サレネバナラナイガ、サリトテ矢鱈ニ無意義ナ濫費ヲヤツテハナラヌ。尤モ唯無闇ニインフレーションニツイテ神経質ニナツテハ資金ノ運行情妥當ニ行ハレヌコトニモナルカラ戒心ヲ要スルガ、生産者ガ資金ヲ輕視シテ無茶ニ亂暴ナ取扱方ヲスレバ、畢竟之ハ物資、勞力ノ濫費ヲ誘致シ結局自ラヲ苦シメルバカリデナク、延イテ戦時經濟全体ノ運行ニ著シイ支障ヲ招來スルコトニナル。物價ハ上リ勞銀ハ上リ生産費ハ上リ今度ハ之ガ禍因トナツテ資金ノ需要ガ過大トナリ其

ニ高滯率也發軔セシメハナシ。

資材ハ愈々貴重イテ、之ヲ對用ニハ難愈ニ難シ景子首絞敵國
彈丸價廉、土ニ對資ニ要スルロイ愈々急且大ニテ、之ヲ生産ニ要ス
ノ撒布ノ増大ト共ニ資金滯溜ガ多クナツテ調節ガ出來ナクナレバ、
茲ニ所謂戰力増強ノ目的ニ逆作用ヲ齎スベキインフレーションヲ惹
起スル。決シテ前途ヲ悲觀スルモノデハナイ。戰力増強ノ至上命令
ヲ具現スル爲メニ資金需要ノ増大ハ自然ノ趨デアル。此ノ資金カ循
環作用ニ依ツテ還元スルニハ時間ヲ要スル。此ノ間ニモ資金ハ逐次
供給シテ行カネバナラヌカラ通貨發行數量モ次第ニ増加ノ趨勢ヲ招
來スルコトハ已ヲ得ヌ事情ガアル。而シテ取引様式ノ變化即チ信用
取引カラ現金取引ヘノ移行傾向ヲ別ニシテ見テモ、一般産業資金ノ
供給増大スルコトカラノミデ既ニ通貨數量累増ノ傾向ハ醸成サレテ
居ル。然シナガラ此ノ傾向ガ急激ニ過大ニ來ルコトニナレバ戰時經
濟ノ實體ガ脆弱ナモノニ墮シ戰力増強ノ永續性ガ阻害サレル。ソレ
デアルカラ通貨増加ノ過程ハ極力妥當ニナダラカナ經過ヲ辿ルコト
ガ望マシイノデアル。

要請用ニ対シテ數示スルニハ期間ヲ要スル。此ノ間ニ資金ハ漸ク
具具スル爲メニ資金需要ハ尙大ハ自然ハ斷テマ。此ノ資金ハ漸
減スル。其ノ前段ニ準備スルモノハセト。彈込餘額ハ至土命令
勿論時局ノ要請ニ即應シテ或ル場合一時ニ急激ニ且ツ巨額ノ資金放
出ヲ行ハネバナラヌコトモ起ラウガ、其ノカ、ル放出ヲ行ツタ後ニ
ハ努メテ之ヲ正常ナル資金循環性ヲ損ハシメザル様ニ妥當ニ引直シ
金融政策ノ耐久力ヲ減殺セシメヌ様措置スルコトガ肝要デアアル。
尙戰時經濟ノ体制上資金面ニ於テハ其ノ放出ノ企畫ハ漸次大口且簡
易ニ行ハル、コトニナリ、又一方物價面ニ於テ其ノ統制ガ物價ノ實
際的昂騰ト生産增強ノ急務ナルトニ依テ押サレ氣味トナルニ際シテ
ハ、是等資金ト物價トノ兩面ノ措置ニ就テ餘程周到ナル注意ヲ拂ハ
ナケレバ通貨ハ奔流ノ如ク膨脹スルノデアアル。

○資金循環性ノ保持

今後金融通貨政策上ニ重大ナル動向ヲ齎スモノハ何ト云ツテモ
(イ) 國庫支拂、租稅徵收並公債消化等ノ財政上ノ收支ト
(ロ) 生産資金ノ増大スル需要

トデアリ、其ノ金融運營ノ巧拙ハ影響スルトコロ大ナルモノガアル。
而シテ資金ノ循環性ヲ保持スルコトガ益々肝要トナルノデアアル。
資金循環性ヲ妥當ニ保持スル爲メニハ又二方面ノ考慮ヲ必要トスル。
一、資金放出ノ方面

重點ニ副ヒ適當ナ資金配分ヲ要スルガ、之ニハ企畫ト統制ガ適當
ニ行ハル、以上先ヅヨイトシテ、コ、ニ資金運用上ノ問題ガアル。
即チ配分セラレタ資金ヲ所期ノ目的ノ爲メニ適正ニ遺憾ナク活用
セラレテ居ルカドウカヲ常ニ檢討シテ見ル工夫ガ必要デハアルマ
イカ。軍需會社ニ新設セラル、監理官ノ職務ハ此ノ方面ニ於テモ
重要性ヲ増ス次第デアルガ、尙進ンデ一會社毎ニ特設的ノモノデ
ナク全般ノ企業ニ亘リ隨時巡察スベキ監督官ヲ置クコトモ場合ニ
依ツテハ必要トナルカモ知レナイ。

二、資金調達ノ方面

一 資金支出ノ式面

資金需要對ニ妥當ニ対応スル爲メニハ又ニ式面ノ等類ニ必要イヌ。

而シテ資金ノ需要對ニ対応スル爲メニハ又ニ式面ノ等類ニ必要イヌ。通貨發行權ノ利用ハ放慢ヲ許サザル次第デアツテ見レバ、浮動資

金ヲ吸收スルコトガ最モ意ヲ用ユベキ命題トナルノデアアル。

消費ノ規正ト共ニ貯蓄ノ増強ニ最モ力ヲ致スベキデアアルガ、結局資金ノ調達ハ金融機關ヲ中心トシテ考慮スルコトガ戰時經濟下ニ適應スル所以ト思ハレル。即チ金融機關ハ其ノ使命トシテ資金ノ貸出ト云フ方面ヨリモ預金ノ吸收ト云フコトニ於テ今日ハ非常ニ其ノ重大性ヲ増シテ來テ居ルコトヲ深ク自覺セネバナラヌ。戰費ノ調達ト云ヒ生産資金ノ供給ト云ヒ一應資金ヲ金融機關ニ集ムルコトニ依ツテ企畫的ニ且大口ニ即應スルコトガ出來ルノデアアル。素ヨリ公社債消化ノ如キ各個人直接ノ消化モ之ヲ推進シテ行クコトガ必要デアアルガ、資金ヲ金融機關ニマトメルニアラザレバ今日ノ尨大ナ資金需要ニ對シテハ敏速且妥當ニ賄ヒキレマイト云フノデアアル。是實ニ時局下金融機關ノ機能上重大ナル重點ノ變化ニ

資金、購置へ金繰廻關に中心いし、そ等懸スルロイは、彈制懸衡不ニ
餘費、賦五イ共ニ預蓄、餘貯ニ景子代に煙スへキマテハ、餘風
金、懸州スルロイは、景子意、用ニハキ命、限イマハ、マテハ。
外ナラヌ。

○通貨膨脹趨勢ノ檢討ト其ノ措置

通貨膨脹ノ趨勢ハ最近頓ニ顯著トナツタ。日銀券ハ十月末八十億圓
ヲ突破シ昨年同期ニ比シ二十三億圓ノ著増ヲ示シテ居ル。(昨年最
高發行高ハ十二月卅日ノ七十四億四千七百萬圓)之ガ主タル原因ト
シテハ左ノ諸事情ガ擧ゲ得ラレル。素ヨリ其ノ通貨數量ニ及ホス影
響ハ時ニ依リ輕重ハアル。即チ

一、財政支出ノ増大

二、産業資金需要ノ旺盛

三、物價騰貴

四、輸送費ノ増加

五、俸給、賃銀ノ増大

六、現金手持高ノ増加

高懸計高八十二日廿日、十四日四千十百萬圓、之々主々ハ原因イ
ト突如々相争同職ニ出々二十三圓圓ハ蓄積ニ示々々示々。ハ相争景
匪貨運廻ハ懸懸ハ景況ニ懸蓄イセ々々。日驗幾ハ十日末八十圓

○ 匪貨運廻懸懸ハ懸情イ其ハ計置

1、物資統制ニ伴フ現金支拂制ノ増加

2、日常物資出廻リ不圓滑ノ爲メ隨時ノ購買ニ用意セラル、現金ノ増加

3 關取引ノ横行ニ伴フ現金取引ノ増加

七企業ノ整備所要資金並企業設備ノ未完成乃至未運轉又ハ生産物ノ搬出不足分等ニ因ル資金ノ固定ニ伴フ新資金ノ需要増加

而シテ以上ノ諸事情ヲ通シテ放出サレタル現金ガ其ノ流動性ヲ減少シテ循環力鈍化シ所謂還元作用ガ圓滑ナラザルコトハ、又全面的ニ通貨膨脹ノ消極面ニ於ケル重大ナル原因トナルノデアアル。

是ニ於テカ今後一層如上ノ諸事情ヲ檢討シ之ガ對策ヲ推進シテ行カネバナラヌガ、其ノ對策ノ成果ヲ舉ゲル爲メニハ根本的ニ各方針間ノ關聯性ヲ考へ、各職場間ノ連絡協力工作ヲ必要トスル。之ガ適當ニ行ハレナケレバ效果ハ充分ニ得ラレナイコトニナル。具体的方策

S、日常資金支出、不圓散、益々翻轉、艱買ニ用意サセ、其金ハ個々ニ勘案サルベキデアルが、施策上ノ大體ノ方向トシテハ左ノ如キコトガ舉ゲ得ラレル。

一、資金放出ノ周到ナル規正

徒ラニ時局ニ便乗セントスル企業資金ノ需要ヲ勘別スベキハ勿論不怠、非重點的企業ニ對スル放出ヲ規正スル爲メニハ資金ノ企畫制度ガ存スルノデアアルガ、之ガ實際ノ運営上ニハ此上トモ慎重ヲ期スベキデアアル。即チ企畫ハ國策的配分ヲ目途トシ苟モ因習、情實、都合等ニ囚ハレテハナラヌ。又往々ニ行ハル、所ノ實績主義ノ如キハ御都合主義ノ舊思想デアツテ、平和時代ノ實績ガ今日ノ實情ニ當テハマルベキモノデナイコトハ云フ迄モナク、況ヤ戰時下ニ於テモ情勢ハ常ニ變化スルニ於テヲヤ、要ハ現在ノ國策的見地ヨリ勘案スベキデアアル。同時ニ又資金ヲ放出スル金融機關自体ニ於テモ場合ニヨリ國策上犠牲的金融モ亦之ニ當ルノ覺悟コソ必

不怠、非重課の企業ニ權スル財出ニ財五スル爲メニハ資金ノ企畫
封ミニ割同ニ財乘サニイスル企業資金ノ需要ニ制限スルキハ必
一 資金財出ノ周匝ヲ財五

要デアツテ、兎角打算的デアツタリ、同業相互ニ矢鱈ニ競争ニ

墮シタリスル様ナ自由經濟時代ノ舊思想ハ之ヲ清掃シテカ、ラネ
バナラヌ。

二 資金ヲ使用スル側ニ於ケル企業運營ノ放慢ヲ戒メ資材ノ高能率の
利用ト同様、資金ノ濫費ヲ自肅セシムベク、場合ニヨリテハ政府
當局其他ニヨル經理監督ノ方法ヲ一層充實スルノ要ガアル。

三 配給機構ノ運營ヲ適正ナラシメテ、生活物資ノ絶對必要量並ニ軍
需生産物資ノ妥當ナル配給ヲ確保スルコトガ必要デアリ、斯クス
ルコトニ依リ、是等物資ヲストツクスル爲メ資金ヲ固定セシムル
ノ弊ヲ避クベキノミナラズ、取引上ニ於テ普通ノ現金買乃至闇取
引ヲ防止スルコトガ出來ル。殊ニ現在日常生活品ノ配給、例ヘバ
米、野菜、魚類、木炭、薪ノ如キ現金賣ノ制度ナルヲ改メテ、ナ
ルベク月末拂等ノ掛取引ニ依ラシムルコトハ闇取引ノ防止上下共

味用イ同類ノ資金ノ濫費ニ自顧サシムヘキ。總合ニ見テハ廻流
ニ資金ニ對用スル間ニ貸マシ企業經營ノ對策ニ好々資材ノ高騰率由
ルマシヌ。

ニ現金假月量ヲ減少スル所以デアル。尙現金使用量ノ節約ノ爲メ
ニハ諸官廳ノ支拂ヲ小切手振替ニヨリテ本人ノ指定スル金融機關
ニ入金スルトカ、俸給、賃銀ノ支拂ヲ預金口座、貯金帳ニ振込
ンデ渡ストカ、之ガ徹底ヲ期スベキデアル。

四物價ノ急速ナ昂騰ハ企業ノ資金企畫ヲ混亂セシメ生産力ヲ阻碍ス
ル。素ヨリ物價政策ニハ物資ノ生産、配給、運輸、消費規正等ノ
諸工作ト聯繫協合ヲ要スルガ、直接物價ヲ抑制スベキ公定價格ノ
設定ハ現在ノ如ク普遍的ナルヲヤメテ寧ロ重點主義ニヨルコト、
シ、一旦設定サレタ公定價格ハ之ガ徹底ヲ期スルコトガ得策デア
ル。素ヨリ闇相場ニヨル取引ハ前項ノ配給確保ノ一面ニ於テ之ヲ
嚴重ニ取締ラネバナラヌ。

五勞働賃銀ノ暴騰ハ種々ノ方面ニ累ヲ及ボシテ居ル。之ハ一般物價
特ニ生活物資ノ昂騰ニ依_因テモ招來サレルカ、一方企業者間ノ勞力

茲此重ニ勸シテ羨望ニ堪マズルハ公平ヲマテス。又獎勵ニ升ヘテハ獎勵ヲ置ク不ニ其ハ獎勵ノ封賞ノ蘇醒等ニ目リ獎勵ニ夫々ハ獎勵テ非常ニ重大ナコトガアル。即チ之ハ貯蓄ノ勵行デアアルコトハ申ス迄モナイ。之ニ依テ資金ノ循環性ガ保持サレ、増大スル資金調達ガ可能トナル、然モ通貨ノ所要量ヲ節約スルコトガ出來ル。貯蓄ノ促進ニハ根本ニ於テ通貨ノ將來ニ對スル國民ノ信賴間ヲ高ムベキデアリ、今次ノ戰爭ニ依テ國力ハ無限ニ伸展シ、從ツテ貯蓄シタ金ヤ投資シタ公債ニツキ不安ナキ理解ヲ徹底セシメネバナラヌ、次ニ貯蓄ノ増大ニハ一面消費ノ規正ト物價抑制ノ政策ガ大ナル關聯ヲ持ツ。消費ノ規正乃至物價ノ抑制ニハ生活必需物資ノ適正ナル配給確保ガ伴ハネバナラヌ。會社等ノ法人ノ經費ニツキテモ同様デ其ノ消費規正ヲ必要トスルガ一面其ノ必要資材ノ補充ニ就テハ適正ナル配給ガ考ヘラレネバナラヌ。

貯蓄ノ增強ニ就テハ官民ノ間ニ從來熱心ニ唱道セラレ又種々ノ方策ガ實行サレテ來テ居ルトコロデアツテ今更喋々ヲ俟タナイ次第デア

ル。大体ニ於テ都會地ニ於ケル貯蓄成績ガ不振ヲ免レナイカラ資金
吸收上複雑シタ手段ヲ用フルノ已ナキ事情ガアルガ、地方ニ於テハ
比較的貯蓄方策ハ徹底シ易イカラ必ズシモ都會地ト同様ナ複雑シタ
獎勵方法ヲ必要トシナイカト思ハレル。何レニシテモ今日ノ問題ト
シテハ、貯蓄ノ勵行ハ現下如何ナル方面ニ重點ヲ置イテ努力ヲ拂フ
ベキカ從ツテ又之ニ適應スベキ方途ヲ如何様ニ考フベキカニアル。

○資金ノ滯溜ト大衆層

政府資金並産業資金撒布ノ累増アル一方、之ガ還流ノ振ハザル主要
原因ノ一ハ、是等撒布資金ガ一般大衆ノ間ニ浸潤シ滯溜スルコトニ
アル。

（註） 卑近ノ事例ヲ舉ゲテ見レバ

✓ 一、關西デ市中ノ飲物屋デ長ク行列ヲ作ルノハ不体裁ダカラト云フ
ノデ郊外ノアル工場ニ隣接シテビール店ヲ開設シタトコロ、職

ハキ氏翁ハ又文ニ蘇蕪スハキ氏翁ハ成同翁ニ答クハキ氏ニテハ
シテハハ報蓄ハ儲蓄ハ成同翁ハ成同翁ニ重揚ハ置トモ成同翁ハ
獎勵式去ハ必更イシト成同翁ハ成同翁ニ成同翁ハ成同翁ハ
出陣ハ報蓄式策ハ成同翁ハ成同翁ハ成同翁ハ成同翁ハ
工ガ押シカケテ行列ヲ八回廻ツテ飲ム者ガアル（ビール一杯七
十五錢之ニ附ケタつまみ物二十五錢計一圓）結局一時ニ八圓ヲ
消費スル餘裕ガアル。

2、アル銀行ガ小口貯蓄ノ勧誘ヲヤツタトコロ月掛貯金ノ最モ大口
ノ申込ヲ受入レタ先ハ屋臺店ノ主人デアツタ。

3、農家カラ買出ヲスルニハ普斷カラ心附ヤ物ヲヤツテ御機嫌ヲト
ツテ置カネバ野菜モ賣ツテクレヌ。農家カラノつり錢ナド取ル
様デハ後賣ツテ呉レナクナル。ソレデ里芋一貫目五圓ト云フ相
場ト云フ。

以上ハ都會地附近殊ニ然リデ素ヨリ正常ナラザル取引デハアル
ガ事實行ハレテ居ル。農家ノ收入ハ大シタモノデアアル。

4、大衆層ノ爲メニ飲食店ノ繁昌ハ獨リ場末バカリデナク次第ニ上
級ノ店ニ平素見馴レナイ客ガ入り込ンデ來テ居ルガ、此ノ傾向

善ム、請林へ対舉ニ盡セテト。

セト式面へ、蠶山の金動ハ益々繁昌スル趣向セテス。

取リヤ所得ノ比較的明瞭ナ層カラ積ヲ取リ又ハ貯蓄ヲ實行セシムル

様ニハ行キ届キカヌルノデアアル。一般ノ努力ヲ要スル。此ノ民衆層

カラ滯溜資金ヲ還元スルニハ實情ニ鑑ミ工夫ヲ進メテ行クベキデア

ルガ、

1、貯蓄機關ヲシテ貯蓄預金吸收上ノ努力ヲ一層此ノ方面ニ傾注セ

シムルコト、大衆ノ單純ナル心理即チ義理人情ニ訴へ熱意ヲ以

テ貯蓄心ノ昂揚ニ努ムルコトモ肝要デアアル。

2、源泉ニ於ケル天引主義ノ強化、即チ農村、鑛山、工場等各職場

ニ於テ支拂金ノ中ヨリ現在以上ニ天引率ヲ引キ上ケテ貯蓄セシ

ムルコト。

3、割増金附定期預金ノ臨時的取入（朝鮮ニ於テハ本年六月既ニ第

一回ヲ實行シ非常ナ好成绩ヲ舉ゲタ）

4、割増金附小額債券ノ賣出（朝鮮ニ於テ本年十二月ニ實行スル）

氏ニ幣階資金ニ徴元スルニハ實計ニ鑑シ工夫ニ並ヌモ亦ヤシキモテ
對ニハ亦非國非氏又ハハノマテハ。一、課税ノ要件スル。此ノ民衆層
浮動資金ノ吸收ヲ目途トスル租稅方策ヲ工夫スルコトモ必要テ
アル。徵稅ノ原則トシテハ綜合シタ所得ニ對シテ課稅スルノガ
便利デアルガ、大衆ノ間ニハ所得ノ調査ガ徹底シニクヒモノガ
難クナイカラ、間接的課稅モ加味シテ行クベキコトニナル。非
消費物品ノ外飲食店等ノ消費的勘定ニ對スル課稅トカ芝居、映
畫入場料ニ對スル課稅ノ引上トカ、尙研究ノ餘地ガアルト思ハ
レルガ、此ノ外大衆ヲ目標トスル間接稅ノ徵收ヲ檢討シテ見テ
ハドウカ。又稅デハナイガ勘定書ニ公債抱キ合セ賣リノ勵行ノ
如キモ更ニ勘案サルベキデアラウ。

而シテ大衆層ノ中デモ最モ取扱ヒニクイ相手ハ自由勞働者層デア
ルガ、漸次之ヲ組織化、團體化スルニ於テハ、此ノ層ヨリスル資金吸
收ノ成果ハ一層擧カルモノト思ハレル。